



2026年2月13日

各位

会社名 ダイナミックマッププラットフォーム株式会社
代表者名 代表取締役社長 CEO 吉村 修一
(コード番号：336A 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員 山田 浩司
(TEL. 03-6459-3445)

2026年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、米国関税政策の影響による自動車メーカーの投資判断の慎重化等を背景に、プロジェクト型売上の一部で計上時期の後ろ倒しが生じる見通しとなったことを主要因とし、あわせてその他の要因も踏まえ、以下のとおり、昨年5月14日の2025年3月期通期決算発表時に開示した2026年3月期(2025年4月1日～2026年3月31日)の通期連結業績予想を修正することを、本日開催の取締役会において決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当期の連結業績予想数値の修正(2025年4月1日～2026年3月31日)

| | 前回発表予想 (A) | 今回修正予想 (B) | 増減額 (B-A) | 増減率(%) |
|------------|---------------|---------------|---------------|--------|
| 売上高 | 百万円 7,000 | 百万円 5,500 | 百万円 △1,500 | △21.4 |
| 調整後 EBITDA | 百万円 △500 | 百万円 △1,000 | 百万円 △500 | △100.0 |

(注) 1. 調整後 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + 政府補助金 + M&A 関連費用

2. 当社は、利益項目(営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益等)の通期予想は非開示としております。

2. 修正の理由

主として、海外のオートモーティブビジネスおよび国内の3Dデータビジネスにおけるプロジェクト型売上について、進行中の案件や受注を見込んでいた案件の一部で、データ整備プロセスの進捗や顧客側の意思決定の影響等により、売上計上時期が当初想定より後ろ倒しとなる見込みとなりました。これらは翌期以降に計上される見通しであり、需要そのものが減少したものではありません。

また、当社が参画している政府プロジェクトにおいて、受注形態の変更により当初想定していた案件の受注規模が縮小する見通しとなったことに加え、補助事業対象として採択されている事業の一部について、補助金給付額の確定時期が当初想定していたスケジュールより後ろ倒しになる見込みとなりました。

なお、ライセンス型売上については、AI向け需要を中心に堅調に推移しており、当初想定を上回る見通しですが、上記の要因を補うには至らない見込みです。

本業績予想修正に関する更なる詳細については、本日同時に開示しております決算説明資料をご確認ください。

3. 今後の見通し

本資料に記載されている将来見通しに関する記述は、本資料の公表日現在において入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は様々な要因により記載の見通しと異なる可能性があります。

以上